

## 日本透析医会に望む

田上 浩

日本透析医会が社団法人化五周年を迎え、いよいよ安定期に入ったことは誠に欣快のかぎりです。

この秋に当り、愚見ではありますが、いささか感想の一端を述べてみようと思います。

昨今、病院の倒産が全国に発生し、各地で様々な社会問題をひきおこしています。これは、かつて政府が一県一校主義的に医科大学を設立した結果、最近に至り医師過剰現象となったことも原因の一つと考えられます。

いまや、日本の医師、とりわけ開業医師にとっては冬の時代が到来したと言っても過言ではありません。

そんな時期にあって、人工透析医療は安定した業種とみられ、透析を始める施設が増加しています。昨年度は対前年比13.5%増で、284施設も増加しました。今後も増加するであろうが、果していつまでも安定した業種としてあり続けることが出来るでしょうか。

ちなみに、透析医療はその性格上医療機器を多数に設け、医師を中心としてはいるが、看護婦・臨床工学技士・メンテ担当者等を要するチーム医療の最たるものであります。したがって、人件費を始め材料・薬剤・電気・水道等必須経費が重大に安定性を左右する特徴を帯びています。

更にこの医療は100%健康保険扱いとなっていて、厚生省や医療協議会の意向次第で益々不安定にならざるをえないのです。

このところ、医療費改訂の度にますます収益率が悪化してきましたが、このままではやがて共倒れ現象が来ると考えても不思議ではありません。いよいよ医会の強力なご指導を願いたいものであります。

社団法人設立五周年を迎え、今や日本透析医

会も安定した軌道に乗ったが、今後様々な課題に際しても積極的に対処されんことを望むものであります。